

## パールレース回航記

トライデント 小菅英明

トライデントのマリモこと小菅です。

去年のパールレースは、フェアウインドの菊池・坂本ペアで華々しい活躍をしましたが、そのレース直後には同じ船でこんな華々しくない回航劇がありました。

今回はその模様を紹介します。

話があったのは年初ごろ。フェアウインドがパールレースの回航メンバーを集めている事をしりました。よく聞けば、レース後に3～4日かけて三宅島で遊んで帰ってくるとのこと。去年のサイキ回航（ノンストップ 27時間強行軍。久しぶりに酔った）とはうってかわったバケーションに、私の心は希望に膨らみ、早々に7月末に五連続有給の予定を入れたのでした。しかし膨らむ私の心とはうらはらに、回航の計画の方は徐々に萎んでいったのです。

さて待ちに待った7月25日夜、我々回航お手伝いメンバーは瀬戸に集合し、一路江ノ島へ向かったのです。道中もたらされるフェアウインド大活躍の報は、私にその後の楽しいバカンスを予感させずにはおかないのでした。回航メンバーは菊池さん、坂本さん、ブルーシャーク青山さん、今枝さん、私の五人、いずれも一癖ある面子です。

レースメンバーと交替して荷物を積み込み、いざ出航という直前に、菊池さんが言った一言は、

「波高いから、大島はやめて、海岸沿いに伊豆辺り寄って帰ろうか。」

でした。

大島？伊豆？私には一瞬意味がわかりませんでした。そう、当初予定していた三宅島はその後すぐに日程の関係から頓座して、伊豆大島に変更となっていたのです。当日はそれも厳しく、結局は海岸沿いに帰ることに。出発直前に、私の心は大きくクールダウンさせられました。

さて、目的地が決まって出航です。まだ朝日起きらぬ六時頃、波高い海へ船を出しました。その後時間の経過とともに陽は昇り、暖かくなってきたのですが・・・今一つ暖かさが足りない、というより暑くない。もうすぐ八月というのにどうなってんだ、と思いながら、パンをかじり、ラーメンをすすり、ビールを空けながら、ずるずるとこの日の日航を過ごしました。

寄港地は伊豆の下田。ここで風呂をあびて飯を喰らい、買い出しをして船の中で眠りにつきました。暑くもないくせに日焼けは進行したらしく、風呂のお湯が染みしました。この日はどこぞのカジキ釣り大会があったらしく、沢山の船が寄港しています。どうもマナーを解していない輩がいるらしく、夜にエンジンを付けっぱなしの船があって、ブルブル音がする。

そんな中、

「これが私のバカンスなのだろうか？」

との疑問とともに、眠りについたのでした。

二日目は、早朝海がガスっている上、急ぐ理由も気分もないので、ゆっくり九時頃出航。  
この日が前日と決定的に違っていたのは、

「…寒い…」

改めて、今七月だよな、と確認したくなるような肌寒い気候の中、やはり淡々と道中を  
過ごしたのでした。この日は夜を完徹して走ったのですが、冷え込みが増す中、うかつな  
私は食料を切らしてしまいました。ひもじい、寒い、もう死にたい、と心が折れかけた私  
に、菊池さんが予備のスープヌードルをわけてくれたことは、忘れられない思い出です。  
カップヌードルより麺が少ない、廉価版のスープヌードルだったことが少々気になりました  
が…。

また、夜の航路で不規則に光りがまたたく星色の美しさも、気を紛らわせてくれたもの  
でした。

そうこうしているうちにようやく、三日目の陽が昇り、朝の九時頃、武豊に到着しまし  
た。バカンスの期待は見事に裏切られ、夏らしい暑さとも無縁の三日間でしたが、終わっ  
てしまうと懐かしくなるのが人の性、またの機会には呼ばれたいな、と改めて思うのでし  
た。

(今年は三度目の正直？それとも二度あることは…？)